



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「エボラ復興パイロットプロジェクト実施の重要なステップ それは調達」号

2017年5月12日号 (Vol.42)

前回の41号では、エボラ復興パイロットプロジェクトの調査から計画の活動をお伝えしました。今回は業者選定のための調達の作業をお伝えします。

調達は、シエラレオネの調達法に沿って実施されます。今回のパイロットプロジェクトでは、ポルトロコ・カンビア各県3つずつ計6プロジェクトについて、入札図書を作成し、新聞公告、開札、評価と順を踏んで、施工業者を選定しました。

入札図書の作成ですが、設計作業が遅れ、期限になっても入札図書が完成しませんでした。

職員の能力向上のためには、日本人専門家が手を出しすぎでもいけないのですが、全く手を出さないと、なかなか進みません。工事開始が遅れ、今回選定された事業を完了できないと、県議会がコミュニティの発展に寄与できなくなります。どこまで彼らの自主性に任せるのか、どの部分を手伝うのか、その加減を試行錯誤しています。

開札・評価の時期になると、工事開始予定日が迫ってきたこともあり、さすがに何とかしないと聞いた県議会職員たちも本領を發揮し始めました。

ポルトロコ県では、エンジニアのハッサン氏が開札式を見事に仕切りました。ハッサン氏は、プロジェクトの当初から関わっており、調達手順を十分理解しています。開札が始まると、慣れた手つきで、チェックリストに沿って1つ1つ項目をチェックしていきました。翌日の応札書の評価の際にも、事前に準備したチェックリストに従って必要書類の有無などをチェックし、疑問がある項目については評価委員で議論しながら決定していきました。途中、ハッサン氏とプロジェクトのスタッフの議論が白熱することもありましたが、皆が真面目に評価を行おうとするからこそです。評価は丸1日かかりましたが、無事、業者を選定することができました。

県議会の調達官は、土日返上で評価レポート・契約書案など必要書類一式を作成しました。彼は土日に友人の結婚式に出席していましたが、結婚式の1次会から2次会に行く途中で私たちが宿泊しているホテルに立ち寄り作業をし、結婚式からの帰りにまたホテルに立ち寄るといふ熱の入れようでした。

今回の調達プロセスを通じ、様々な面で、県議会職員達の能力向上が見受けられました。例えば、評価時のチェックシート一つをとっても、本プロジェクト開始前までは、詳細を確認せず、大ざっぱな判断で評価を行っていたようです。しかし、プロジェクトを進めていく中で、評価基準を明確にすることの重要性に気付き、今回は1つ1つチェックをしながら進めていきました。また、調達の各プロ

セスについて、何となくするのではなく、1 つ 1 つを調達法に従ってこなしていたことも本プロジェクトの成果ではないかと思います。

以上



ポートルコ県での開札の様子
応札図書の入った箱を皆の前で開封する



ポートルコ県での開札の様子
エンジニアが項目を読み上げていく



ポートルコ県での評価の様子
疑問がある項目については評価委員の中で激しい議論
が交わされた



カンビア県の調達委員会
評価結果について議論、承認された